

今週（7月3日から7月7日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日々、レートが急速に上昇する展開となった。

無担保コールO/N物は、週初、国内勢の調達を中心に▲0.08～▲0.07%近辺での出会いが始まった。しかし4日以降は調達レートを切り上げる展開となり、加重平均レートは、日を追う毎に上昇した。週末となった7日は、3日積み要因も加わり、レート水準が一段と上昇し、▲0.01%近辺での出会いが中心となった。

ターム物に関しては、ショートターム物を中心に週初は▲0.07%近辺での出会いとなっていたが、O/N物のレート上昇が影響し、週後半には▲0.03～▲0.015%近辺での出会いが中心となった。

日銀当座預金残高は、約543兆円程度から始まり、4日の法人税・年金保険料の揚げや5日の10年債発行を受け536兆円まで減少し、その後は概ね横這い圏での推移となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.08～▲0.06%程度水準で推移した。

SC個別銘柄では、2Y440～450回、5Y150～158回、10Y355～371回、20Y175～184回、30Y65～79回、40Y10～16回など、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、入札結果が影響し、週後半から6M物が堅調に推移する展開となった。

6日に実施された6M物の入札は、按分落札利回り▲0.1744%、平均落札利回り▲0.1843%と、年末越えのためか、強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも▲0.200%での出会いが見られるなど、堅調に推移した。7日に実施された3M物の入札は、按分落札利回り▲0.1209%、平均落札利回り▲0.1356%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや軟調に推移した。

4日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.007%、平均利回較差+0.010%と、やや弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、四半期末明けによる発行再開の動きが見られ、その他金融業、鉄鋼、不動産、石油など複数の業態が大型発行を実施した。全体としては週間発行総額1兆1,000億円程度、償還総額3,500億円程度と発行超のマーケットとなり、6月末時点で23.5兆円弱まで低下した市場残高は、5日時点で26兆円台まで回復した。

発行レートは、日銀適格担保銘柄では概ね0%から小幅のプラスレートでの出会いが中心であったが、期間の長い物や残高が膨らんだ銘柄については一部の投資家に慎重な姿勢が見られ、レート水準にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/3（月）	33,753.33	0.400	144.46	△ 0.071	△ 0.081	5,426,800
7/4（火）	33,422.52	0.395	144.50	△ 0.060	△ 0.077	5,395,100
7/5（水）	33,338.70	0.380	144.50	△ 0.032	△ 0.077	5,360,500
7/6（木）	32,773.02	0.405	144.35	△ 0.016	△ 0.074	5,375,500
7/7（金）	32,388.42	0.435	144.10	△ 0.012	△ 0.064	5,363,100

来週（7月10日から7月14日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/10 (月)	日銀支店長会議 さくらレポート(地域経済報告) 5月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 6月の景気ウォッチャー調査(内閣府14:00)				5月の米卸売売上高 5月の米消費者信用残高
7/11 (火)	6月のマネースtock(日銀 8:50)	5Y 25,000億円 7/12発行	エネルギー 対策借入 7,800億円 7/20借入		
7/12 (水)	6月の企業物価指数(日銀 8:50) 5月の機械受注統計(内閣府 8:50)				6月の米消費者物価指数 米ページブック
7/13 (木)		20Y 12,000億円 7/14発行	交付税借入 13,000億円 7/25借入		6月の米生産者物価指数 6月の米財政収支
7/14 (金)		TB3M 58,000億円 7/18発行			7月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/10 (月)	500	600	1,100	国債補完 CP買入	39,700 ▲ 300		39,400	40,500	TB3M発行▲58,000償還62,600 TB6M発行▲40,000償還45,000
7/11 (火)	▲ 1,000	▲ 10,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	
7/12 (水)	▲ 1,000	▲ 40,000	▲ 41,000				0	▲ 41,000	源泉所得税揚げ・労働保険料揚げ 社会保障費払い 5Y発行▲25,000
7/13 (木)	▲ 500	1,000	500				0	500	
7/14 (金)	▲ 500	▲ 12,000	▲ 12,500	CP買入		4,000	4,000	▲ 8,500	20Y発行▲12,000
週間合計	▲ 2,500	▲ 60,400	▲ 62,900	—	39,400	4,000	43,400	▲ 19,500	

7/10は日銀予想、7/11以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期終盤を迎え、引き続き着地に向けた調達ニーズの強い展開が想定されるが、積み最終日となる14日は、7月積み期に跨ぐ取引となるため、レートはやや落ち着く事が予想される。また、引き続き大手行の動向には注視したい。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏での推移が予想される。短国市場は、14日に3M物の入札実施が予定されている。また、11日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、11日にCP等買入オペが4,000億円で予定されており、結果が注目される。

主要なイベントは、国内では、10日に日銀支店長会議・さくらレポート(地域経済報告)、12日に6月の企業物価指数、5月の機械受注統計、海外では、12日に6月の米消費者物価指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入